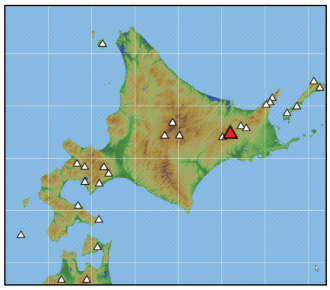
6. 雄阿寒岳（おあかんだけ） Oakandake

北緯43° 27′ 15″　東経144° 09′ 53″　標高1,370m　(雄阿寒岳)(三角点)



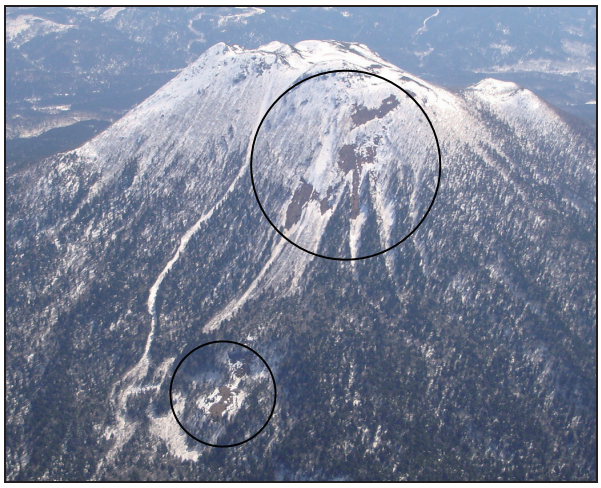
雄阿寒岳全景　南西側上空から　2008年4月16日　中川光弘撮影

概要

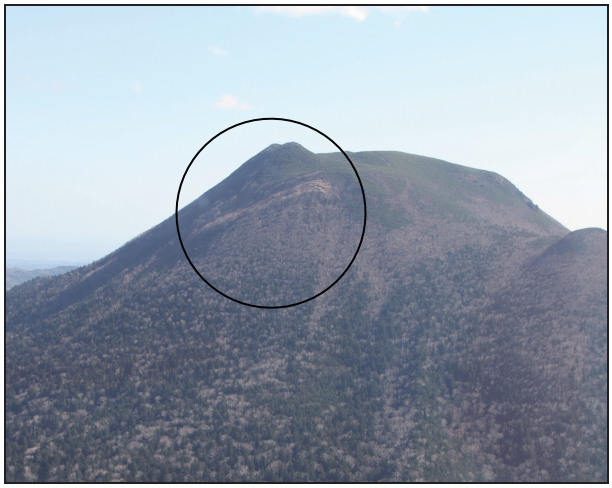
雄阿寒岳は、北海道釧路市の北部に位置する火山で、雌阿寒岳、フップシ岳、フレベツ岳と共に阿寒カルデラの後カルデラ火山のひとつである。雄阿寒岳の噴火活動は前期と後期に二分される。前期の始まりの年代は不明であるが、1.3万年前より古い。8000年以上の休止期を経て、約5000年前に後期の活動が始まり、安山岩質溶岩が多数噴出した。約1000年前までには山頂部での噴火活動は終了した。雄阿寒岳では溶岩噴出が主体で、約5000年前に火砕丘を形成する規模の噴火はあったが、広範囲にテフラを堆積させる規模の大きな爆発的噴火は認められない(玉田・中川,2009)。構成岩石の SiO_2 量は53.9～63.8 wt.% である。

写真

山頂部火口群　南東側上空から　2009 年 4 月 17 日　気象庁撮影



北斜面の地熱域(円内)
北側上空から　2009 年 4 月 17 日　気象庁撮影



北斜面の地熱域(円内)
北西側上空から　2011 年 10 月 19 日　気象庁撮影

山頂部火口群　北東側上空から 2012 年 10 月 18 日　気象庁撮影

地形図

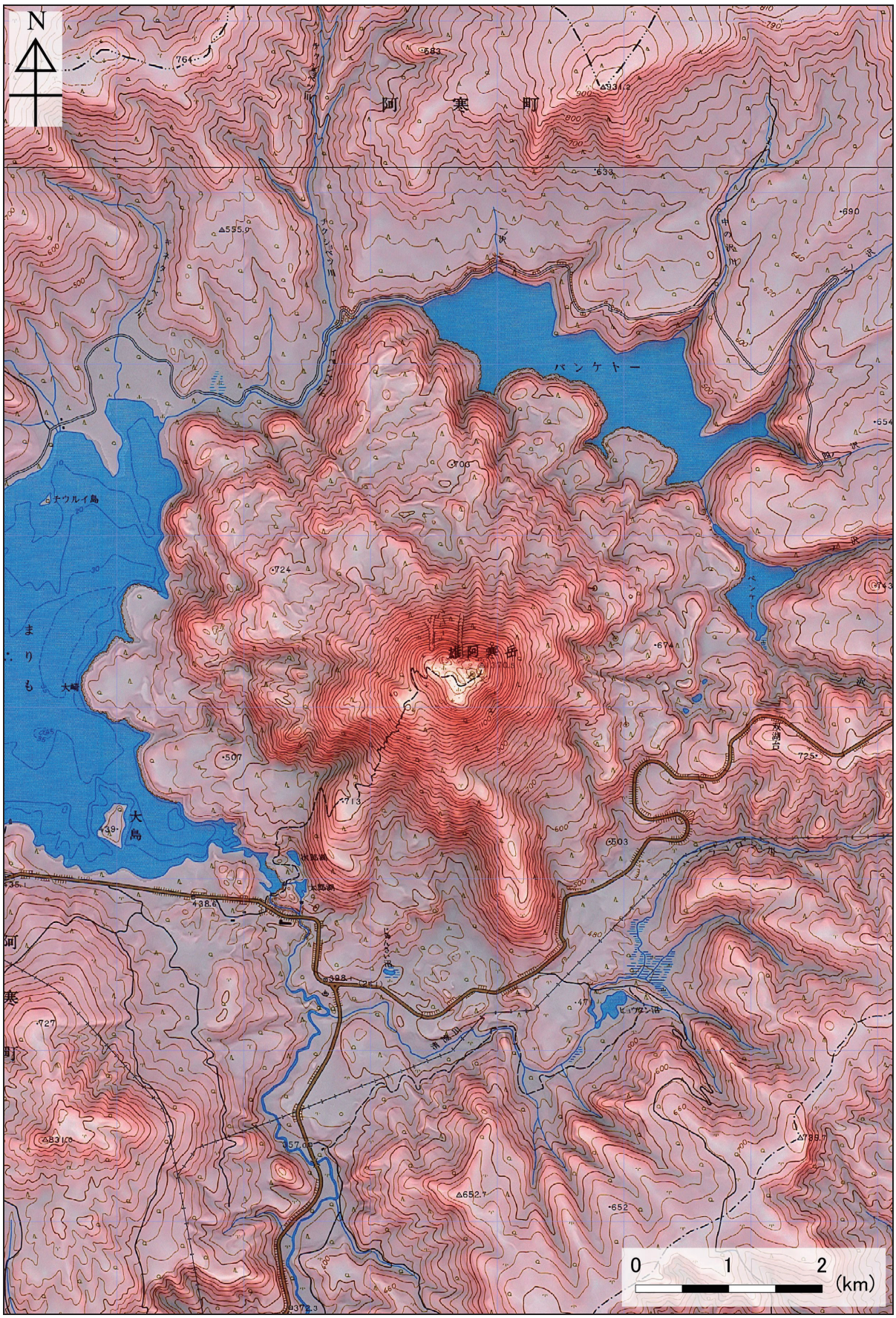


図 6-1　雄阿寒岳の地形
国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図(阿寒湖、上里)及び数値地図 50m メッシュ(標高)

噴火活動史

・過去１万年間の噴火活動

雄阿寒岳は、約 8000 年の休止期を経て、約 5000 年前に溶岩流出後に二ツ岳付近の火口で爆発的噴火が起こり、スコリア、軽石及び安山岩質類質岩片からなる雄阿寒岳降下火砕物(Oafa)を山体南東部に堆積させた。その後、山体南部に溶岩流が流下した。約 5000～2500 年前、山頂付近でストロンボリ式噴火、火砕丘を形成し、溶岩流が山体北部及び東部の広い範囲に多数流下した。その後、約 2500～1000 年前まで、山頂火口群で水蒸気爆発が発生した(玉田・中川,2009)。北山腹の北火口には弱い噴気活動の記録がある(佐藤,1965)。

噴火年代	噴火場所	噴火様式	主な現象・マグマ噴出量
5ka[3]	二ツ岳[3]	マグマ噴火[3]	山体西部に溶岩が流下。その後、大きな時間間隔を挟まずに二ツ岳第１火口で噴火が発生し二ツ岳火砕丘を形成した。引き続き二ツ岳火口付近から溶岩流が南部に流下した。噴出物量不明。[3]
5←→2.5ka[3]	山頂部[3]	マグマ噴火[3]	山頂火口付近を給源とする溶岩流群と山頂火砕丘を構成する降下火砕物からなる。溶岩流は山体南部および山体西部～北部～東部の広い範囲を覆った。噴出物量不明。[3]
2.5←→1ka	山頂部	水蒸気噴火[3]	

※噴火イベントの年代、噴火場所、噴火様式等については、(独)産業技術総合研究所の活火山データベース(工藤・星住, 2006-)を参考とした。なお、年代は暦年代で示す。表中の「ka」は「1000 年前」を意味し、西暦 2000 年を 0 ka として示した。
A←→B：A 年から B 年までの間のどこかで起こった噴火イベント

・有史以降の火山活動

釧路地方気象台が 1991 年に実施した現地観測では、山頂北斜面の地熱域で 10 箇所以上の弱い噴気が認められた。

最近では、札幌管区気象台が 2011 年に実施した上空からの観測でも、地熱域が確認されている。

年代	現象	活動経過・被害状況等
1976(昭和 51)年	地震	7 月 7 日 10：57　雄阿寒岳付近　震度 3 程度：阿寒湖畔、雌阿寒温泉。[1]
1980(昭和 55)年	地震	3 月 28 日 22：36　雄阿寒岳付近(M2.5)　震度 4 程度：阿寒湖畔(雄阿寒ホテル)。[2]

【引用文献】
1.札幌管区気象台 (1976) 北海道地震火山月報.
2.札幌管区気象台 (1980) 北海道地震火山月報.
3.玉田純一・中川光弘 (2009) 北海道東部,雄阿寒火山の形成史, 火山, **54**, 147-162.

全岩化学組成

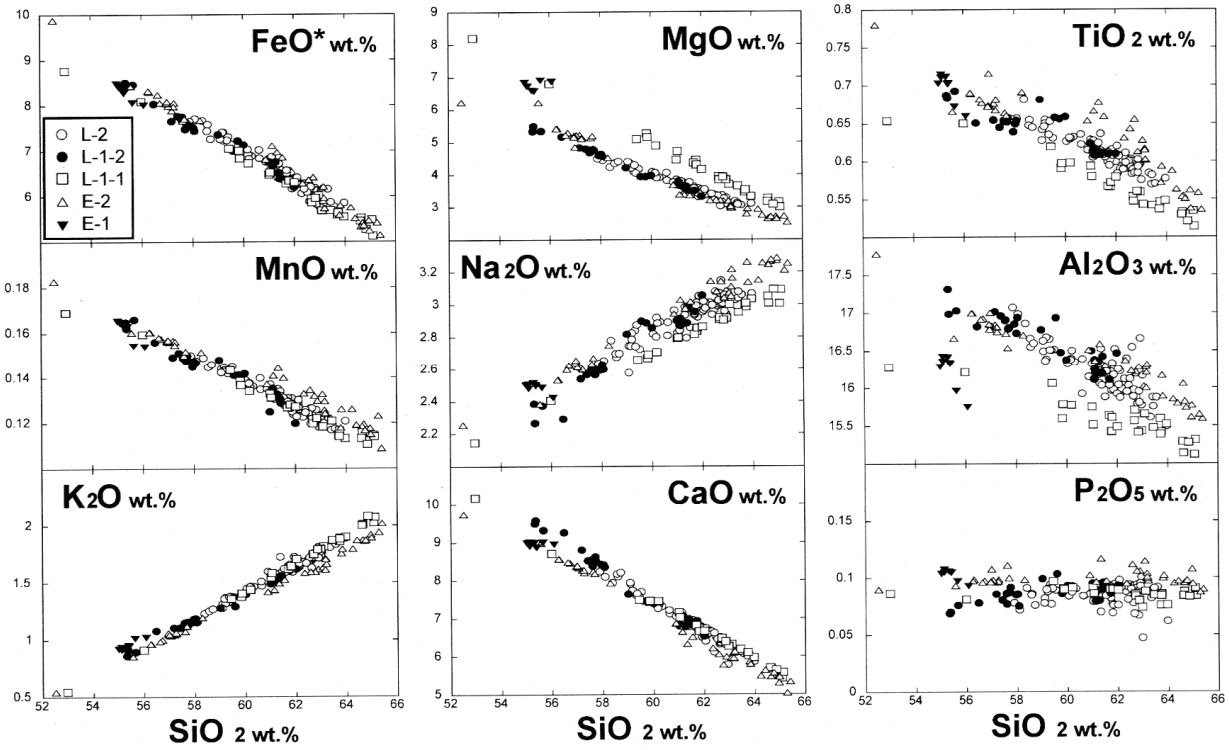


図 6-2　雄阿寒火山噴出物の全岩化学組成ハーカー図(玉田・中川, 2009)

主な火山活動

・5000 年前の噴火

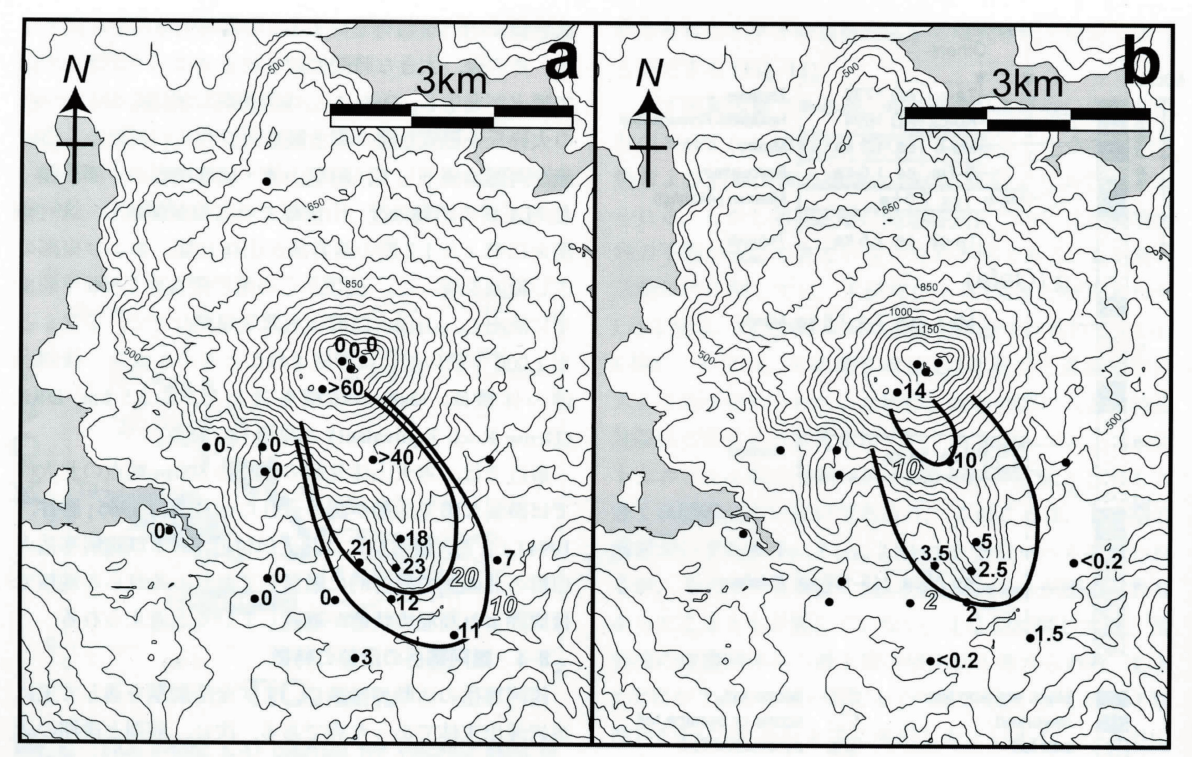


図 6-3　降下火砕物の等層厚線図(a：テフラ層厚(cm), b：本質マグマ物質の最大粒径)(玉田・中川, 2009)

・1000 年前までの噴火活動

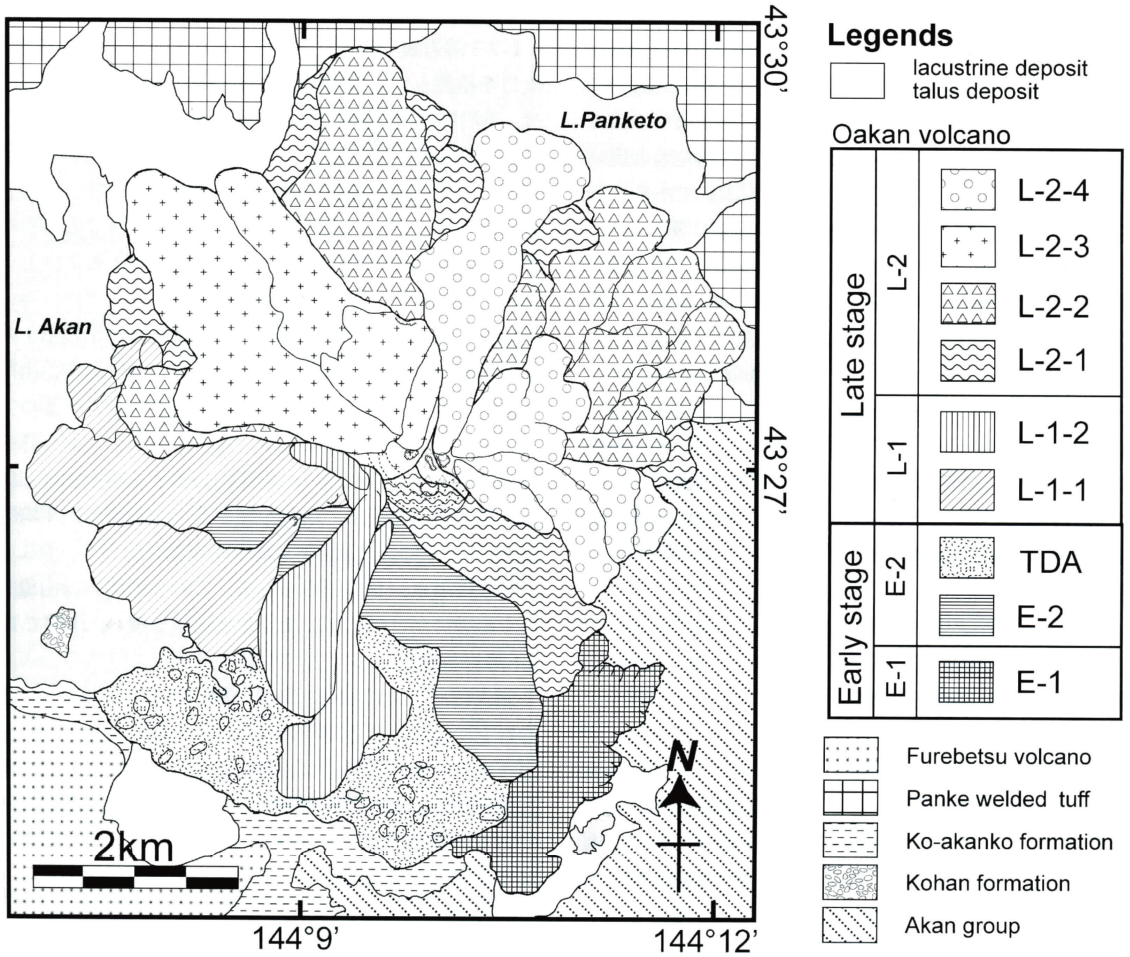


図 6-4　雄阿寒岳およびその周辺地域の地質図(玉田・中川, 2009). 凡例の TDA は前期山体形成後に, 山体崩壊により生じた滝口岩屑なだれ堆積物(和田, 1988). それ以外は主として溶岩流で, 火砕岩も伴う.

近年の火山活動

雌阿寒岳の地震活動を参照

防災に関する情報

①火山防災協議会

なし

②火山ハザードマップ等

なし

③避難実績及び入山規制等の実績

いずれもなし

社会条件等

①人口

・阿寒湖温泉地区の人口：1,402 人(平成 23 年 10 月 31 日現在の統計による)

②国立・国定公園・登山者数等

・阿寒国立公園　阿寒湖温泉地区

年間観光客数：約 924,000 人

(阿寒湖温泉地区観光客入込数、全道市町村調査　平成 22 年度から)

・阿寒国立公園　雄阿寒岳

年間登山者数：約 1,900 人(平成 22 年 6 月 1 日～10 月 31 日)

阿寒湖自然保護官事務所 登山者カウンターによる

③付近の公共機関

機関・部署名	所在地	電話番号
釧路市役所阿寒行政センター阿寒湖温泉支所	釧路市阿寒町阿寒湖温泉 2-6-20	0154-67-2505

④主要交通網

・国道 240 号線、国道 241 号線

⑤関連施設

・釧路市阿寒町阿寒湖温泉

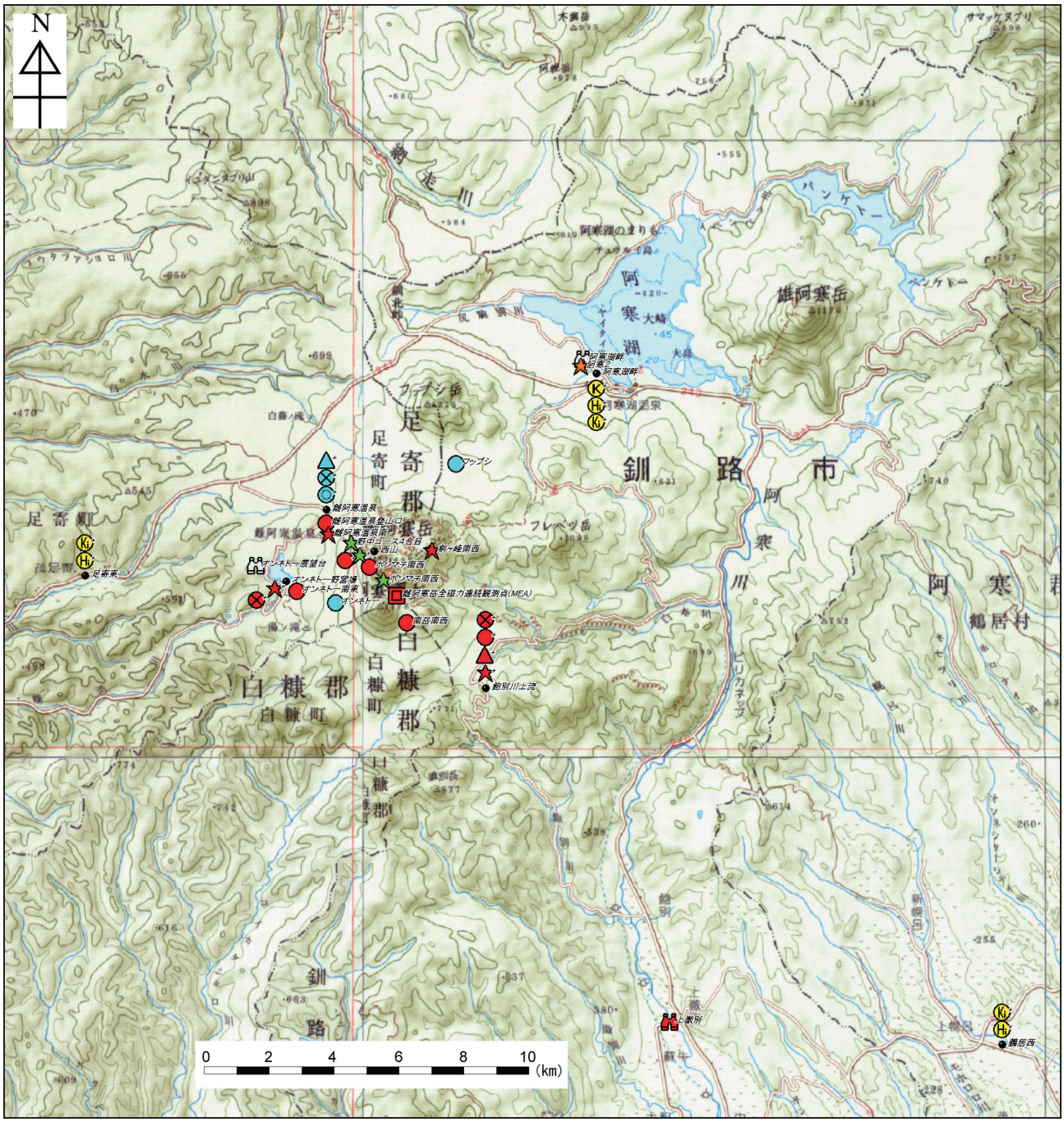
阿寒湖畔エコミュージアムセンター

関係する主な気象官署

機関・部署名	所在地	電話番号
札幌火山監視・情報センター	(札幌管区気象台)札幌市中央区北 2 条西 18 丁目 2	011-611-2421
釧路地方気象台	釧路市幸町 10 丁目 3 番地　釧路地方合同庁舎 9 階	0154-31-5145
網走地方気象台	網走市台町 2 丁目 1 番 6 号	0152-44-6891

気象庁および大学等関係機関の観測網

広域　※ 同一地点に複数の計器を設置している場合には、観測点の位置を●で示し、その周囲に設置している観測点の種類を示している。



国土地理院発行の 20 万分の 1 地勢図(北見、帯広、斜里、釧路)

凡　例

(気象庁)
- 地震計(短周期)
- GPS
- 傾斜計
- 空振計
- 遠望カメラ
- 全磁力計

(国土地理院)
- GPS

(防災科学技術研究所)
- Hi-net
- K-NET
- KiK-net

(北海道大学)
- 地震計(短周期)
- 地震計(広帯域)
- 傾斜計
- 空振計

(北海道)
- 遠望カメラ

(北海道立総合研究機構地質研究所)
- GPS

図 6-5　雄阿寒岳　観測点位置図(広域)

引用文献

札幌管区気象台（1976）北海道地震火山月報.
札幌管区気象台（1980）北海道地震火山月報.
佐藤博之（1965）5万分の1地質図幅「阿寒湖」および同解説書,地質調査所，82p.
玉田純一・中川光弘（2009）北海道東部,雄阿寒火山の形成史，火山，54,147-162.
和田恵治（1988）雄阿寒岳火山カルクアルカリ岩のマグマ混合，岩石鉱物鉱床学会，83，273-288.